

全体総括

○計画期間；平成21年4月～平成26年3月（5年間）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき、「町家の心が息づく語らいのまち」～永遠の日本のふるさと遠野の実現に向けて～を目標に、「多くの観光客が訪れる中心市街地」「市民と観光客の回遊と交流により賑わい中心市街地」を個別指標として、中心市街地の活性化取り組んだ。

「多くの観光客が訪れる中心市街地」では、まちなか観光の推進と官民一体となったイベント活動や文化活動の推進により賑わいを図るため、市街地観光施設である「とおの物語の館」と周辺施設整備及び「遠野市立博物館リニューアル」を行い、周辺市街地では四季を通じて様々な催しが行われるなど、賑わい創出に貢献している。

平成22年には、遠野物語発刊100周年を記念するシンポジウム及び講演会が開催され、市街地においても関連イベントを行い、観光施設や歴史・文化施設にも多くの方が訪れた。

「市民と観光客の回遊と交流により賑わい中心市街地」では、まちなか5地点の歩行者、通行車両の通行量の増加に取り組んできた。市街地に整備された施設が拠点となり平成24年までは順調に増加傾向にあった。計画最終年の平成25年については、大雨等の悪天候により目標数値には届かなかったが概ね順調に推移してきている。計画区域外にあった市役所本庁舎が、東日本大震災により全壊し、計画区域内のショッピングセンター内に機能を移したことにより、人と車輛の流れに変化があり、通行量調査に大きな変化が見られた。

基本計画認定期間の5年間において、市街地の様々な施設整備、賑わいイベントの開催により中心市街地へ市民や観光客が足を運ぶ機会増に一定の効果が発揮されている。

市民団体主催による今までにない市街地イベント、駅前イベントの取組みが実施され、参加者が市内外から多く訪れるなど機運も高まってきているが、施設周辺やイベント開催時にのみ効果が留まっており、中心市街地全体としては、回遊を高める取組みを一層求められている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した      ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた  
②若干の活性化が図られた  
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

## 【詳細を記載】

計画していた63事業のうち、54事業は完了及び実施中、継続事業が3事業と概ね計画期間内に取り組むことが出来た。

ハード事業では、遠野市まちおこしセンターについては広域合併による空きビルとなっていたJAビルを取得改修し、市産業振興部門と商工会が入居し、商工業、雇用、観光、地域交流等の総合窓口として機能している。

また、遠野駅やバス停留所に隣接する好立地のため、会議室としての利用も多い。同様に、駅前において空き事務所となっていた建物を取り壊し、観光交流センターとしてリニューアルオープン。古民家部材も使用し、周囲の景観にマッチした外観と駐車場整備により大きく売上を伸ばしている。

市街地の観光施設として核となる「とおの物語の館」については、震災により整備が遅れたことにより、周辺観光施設との一体的な整備効果が、当初、目標とした入込み数に達していない。

JR釜石線遠野駅の南側にしか乗降口がないことから、北側への自由通路として高架橋を整備する事業とそれに伴う北口駐車場整備により、通学・通勤・買い物の利便性を図り、駅周辺の賑わいを創出する計画であったが、駅舎全体の改修が伴う大規模な事業となり実施を見送った。

ソフト事業においては、城下町としての遠野の町家文化を新たな観光メニューとして活用し、併せて商店の魅力を多くの人に知っていただく機会創出イベントとして町家で古くから保存されてきたひな人形を観光メニュー化し、「遠野町家のひなまつり」として開催。短期間の開催であるが多くの観光客が訪れるイベントとなった。

また、ひなまつり開催と合わせ、『遠野物語』を題材とした市民の舞台「遠野物語ファンタジー」開催、観光ガイドと連携した市内ハイキングを行い、冬期間の賑わい創出に取り組んだ。

### 3. 活性化が図られた(図られなかった)要因

当初計画していた事業は概ね実施することが出来たものの、目標指標としていた「多くの観光客が訪れる中心市街地」、「市民と観光客の回遊と交流により賑わい中心市街地」の基準値、目標値を下回った。

要因は、東日本大震災以降、市全体の観光客や宿泊者が減少し続けていることや賑わい創出として取り組んだイベントが、特定箇所での一時的な賑わいに留まり、周辺商店街や団体と連携した取り組みにならず、回遊性を高めることができなかったことが考えられる。

エリアごとに想定した役割が、計画しながら実施できなかった事業や未着手事業により明確な効果が現れにくかった。

今後取り組みを継続していく上で、中心市街地活性化の必要性や戦略・事業計画を明確にして、その計画を実施していく体制整備が必要と考える。

#### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

##### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

##### 【詳細を記載】

中心市街地でのまちづくりに関する取り組みについては、中心市街地活性化法(平成10年6月制定)を受けて、平成10年11月に「遠野市中心市街地活性化基本計画」を策定し、同時期に遠野商工会がTMO機関として全国第1号の認定を受け、遠野市タウンマネジメント計画（TMO構想）を策定するなど住民や関係団体等の意識が高く、官民一体となったまちづくりが行われてきた。

平成18年の中心市街地活性化法の改正後も、協議・調整を重ねながら、平成21年3月の認定以降、中心市街地の活性化の推進を行った結果、計画に位置付けられた事業は概ね順調に実施されたと考える。

中心市街地において、既存の施設の再生と活用や賑わい創出のソフト事業を着実に実施したもののについては相当程度の効果があったものと評価している。

一方、厳しい経済状況のなか更に東日本大震災による影響で、観光客が減少し、目標値の半分以下。今後の観光振興の大きな課題となっている。

今後は、更に事業効果を上げながらも、市民各層からの十分な理解や参加のもと、引き続き官民一体となって中心市街地活性化に取り組むところである。

#### 5. 市民意識の変化

##### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

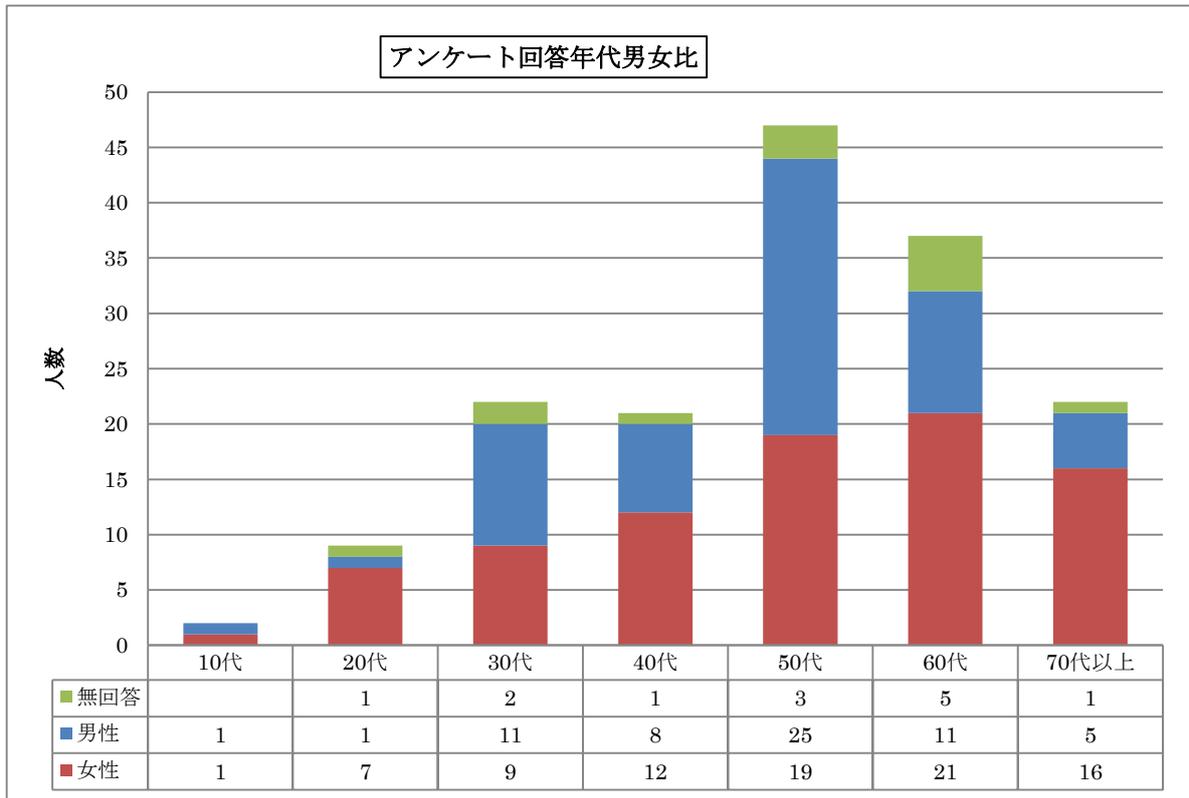
##### 【詳細を記載】

「遠野市中心市街地活性化および遠野市の街づくりの方向性について市民アンケート」

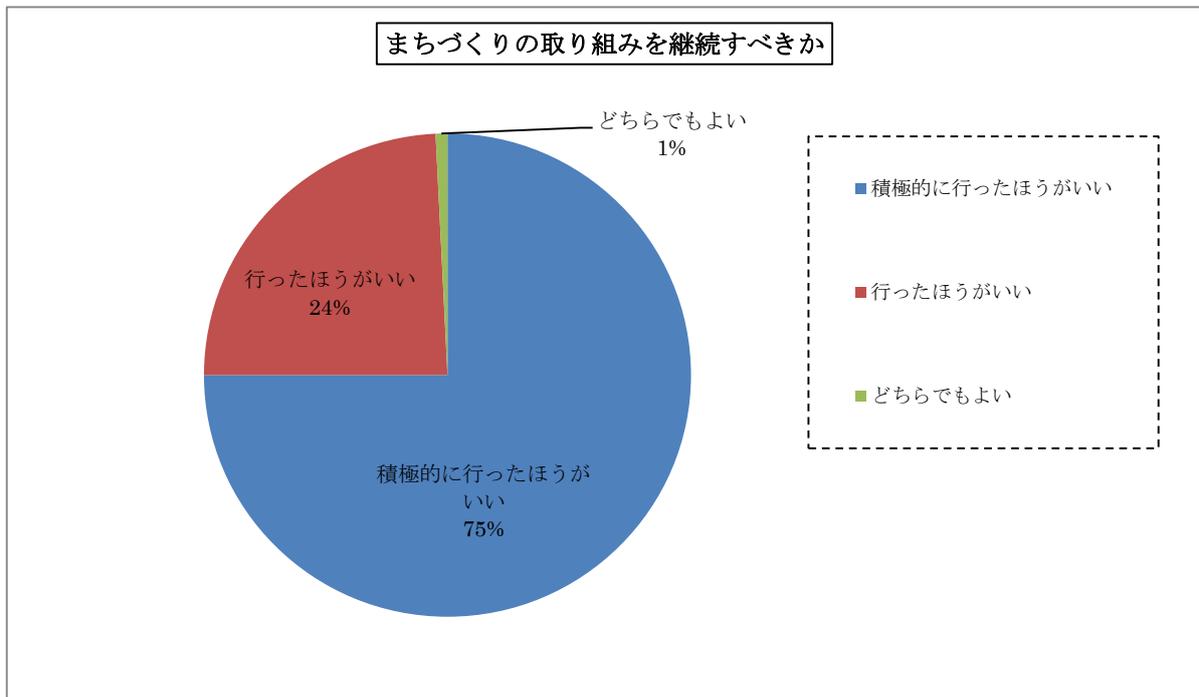
- 1 実施日 平成25年10月11日(土)・12日(日)
- 2 場 所 蔵の道ひろば（遠野市産業まつり会場内）
- 3 回答者 160名

中心市街地活性化基本計画搭載事業であり、郊外の運動公園を会場に開催していた産業まつりを中心市街地の広場で開催することで、市街地の賑わい創出を図ることを目的とした事業に参加された方から広く意見をいただいた。

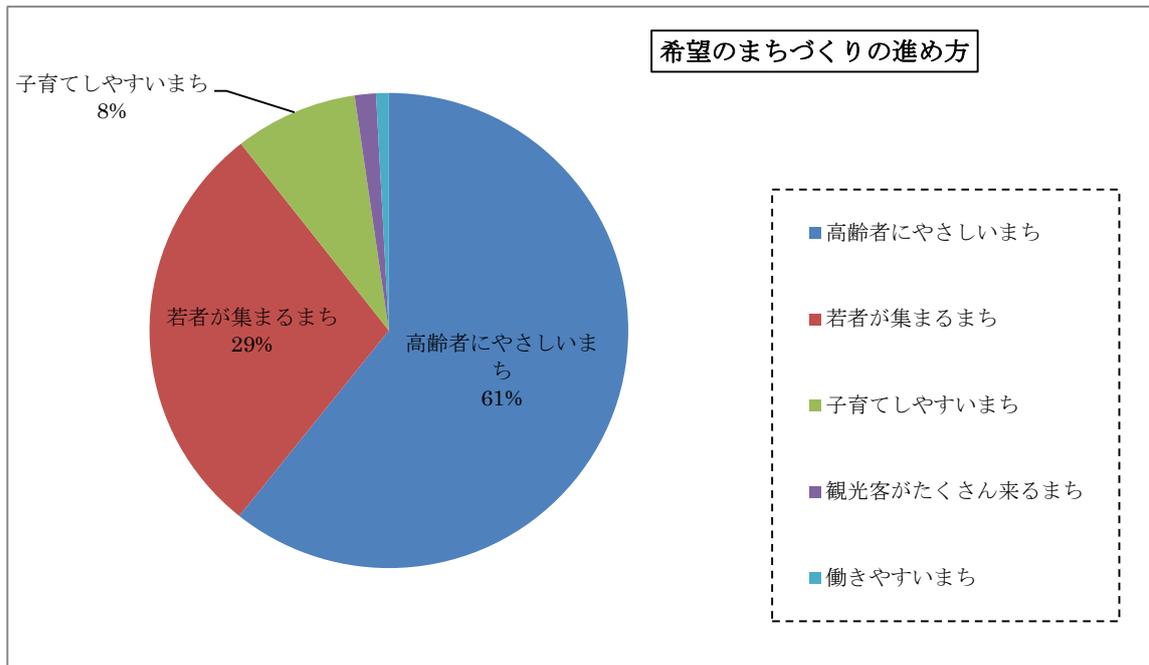
【アンケート回答者年齢構成】



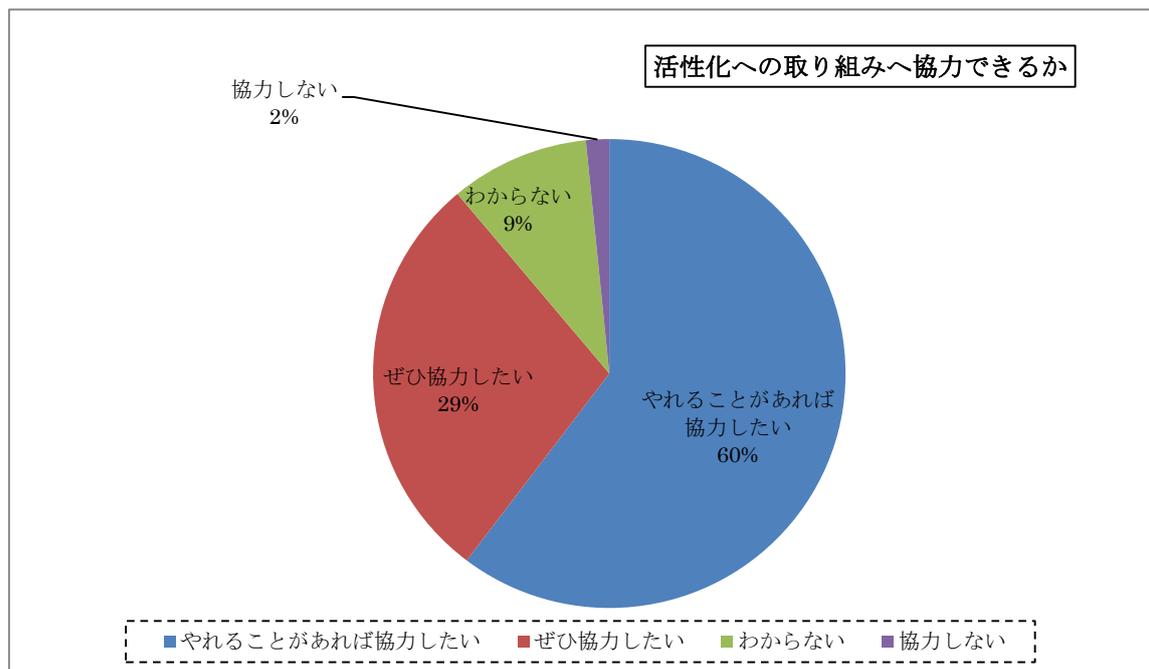
①まちなかの賑わいづくりのための事業を今後も行ったほうがいいか



## ②希望のまちづくりの進め方



## ③活性化への取り組みへ協力できるか



アンケート調査結果を総括すると多くの方が、中心市街地活性化への取り組みを継続することや、取り組みに対して協力する意識が高いことが分かった。

また、まちづくりの進め方については、高齢者に対してやさしいまちづくりに取り組んで欲しいとの意見が半数以上であった。

## 6. 今後の取組み

中心市街地活性化基本計画の事業推進により目標とした指標達成に取り組んだ結果、指標値を達成することはできなかった。

しかし、限定的ではあるが、まちなか賑わい創出に一定の効果はあったと判断することから今後も継続して中心市街地活性化に取り組まなければ、数値が更に加速度的に減少し、市街地衰退が進むこととなり、地域のコミュニティを喪失することとなる。

今計画は終了することとなるが、一定の効果があった計画をもとに今後は、市民や有識者で構成されている「遠野市進化まちづくり検証委員会」により決定した中心市街地への市役所本庁舎建設や市民のスポーツ・文化交流の中心となる「市民センター大規模改修」等に、中心市街地活性化協議会を中心に、官民協働によるまちづくりに取り組んでいく。

### (参考)

#### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
多くの観光客が訪れる中心市街地	中心市街地観光客入込数 市街地観光施設の入込数(人/年)	86,869	100,000	47,038	H26.3	C
まちなかの賑わい創出	街なか歩行者の増加 中心市街地通行車両、歩行者の増(人)	4,429	4,668	3,416	H25.9	<u>c</u>

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

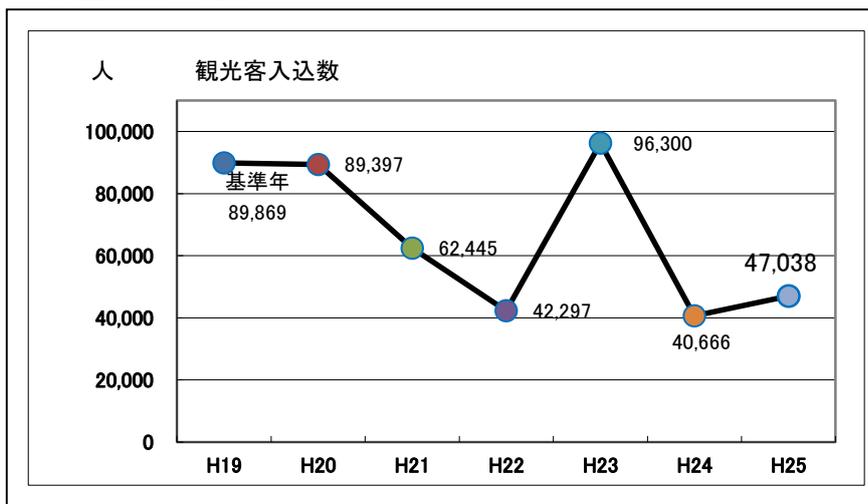
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「多くの観光客が訪れる中心市街地」

「中心市街地観光施設の入込数」※目標設定の考え方基本計画 P59～P62 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：年/人)
H19	89,869 (基準年値)
H20	89,397
H21	62,445
H22	42,297
H23	96,300
H24	40,666
H25	47,038 (目標値 100,000)

※調査方法； 中心市街地の観光施設入込数

※調査月； 年度集計 4 月から翌年 3 月末

※調査主体； 遠野市及び株式会社遠野

※調査対象； 博物館、とおの物語の館入館者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 遠野市立博物館リニューアル事業（事業主体：遠野市）

支援措置名及び 支援期間	遠野市単独事業 平成 21 年度
事業開始・完了 時期	平成 21 年度【済】
事業概要	中心市街地の観光施設である博物館のバリアフリー化や「遠野物語 発刊 100 周年記念事業」の一環として展示施設及び展示内容をリニ ューアルし魅力アップを図る。
目標値・最新値	目標値 100,000 人 最新値 47,038 人(平成 25 年度)
達成状況	目標を達成できなかった。
達成した（出来 なかった）理由	東日本大震災による近隣観光施設整備の遅れにより、相乗効果を得 られず入込数減となった。 遠野市全体観光客も震災以前に戻っておらず計画数値を達成する ことができなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	施設リニューアルにより展示品についてよりわかりやすい説明がなされ、 遠野市の歴史や文化について来場者への理解を深めることができた。
事業の今後につ いて	実施済み

②. とおの昔話村整備事業（事業主体：遠野市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成 21 年度～平成 24 年度
事業開始・完了 時期	平成 23 年度～平成 24 年度【済】
事業概要	遠野物語を紹介する中心市街地観光施設であったが、バリアフリー化や展示内容の改善や全体的な施設整備することにより集客施設として再整備を図る。
目標値・最新値	目標値 100,000 人 最新値 47,038 人(平成 25 年度)
達成状況	目標達成できなかった。
達成した（出来 なかった）理由	東日本大震災による施設整備の遅れにより、供用開始が大幅に遅れ入込数減に影響した。 遠野市全体観光客も震災以前に戻っておらず計画数値を達成することができなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	郷土芸能や昔話の実演スペースである「遠野座」を併設することで、観光客のみでなく、市民や文化活動に関心がある方も訪れる施設として利用されている。 遠野物語の著者である柳田國男生誕地である兵庫県福崎町との交流が生まれた。
事業の今後につ いて	実施済み

### 3.今後について

中心市街地の核となる観光施設整備は計画期間内に終了したが、施設ごとの魅力あるメニューづくりと施設間を回遊する通りの整備を中心に取り組んでいく。

今後も市民や商店街と協働しながら、四季を通じて「さくらまつり」、「七夕まつり」、「遠野まつり」、「町家のひなまつり」等、日本のふるさと遠野らしい行事を開催し賑わい創出を図る。

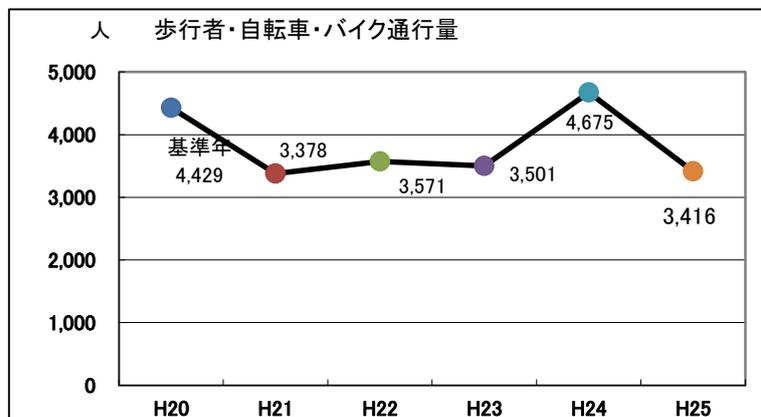
また、冬期間は積雪及び凍結により歩行者の通行に支障をきたしている中心市街地歩道の融雪設備の設置や街路灯のLED化に取り組んでいく。

個別目標

目標「市民と観光客の回遊と交流により賑わう中心市街地」

「歩行者・自転車・バイク通行量」※目標設定の考え方基本計画 P62～P68 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：年/人)
H20	4,429 (基準年値)
H21	3,378
H22	3,571
H23	3,501
H24	4,675
H25	3,416 (目標値 4,668)

※調査方法：中心市街地の5地点の歩行者・自転車・バイク通行量

※調査月：毎年9月の平日・休日(7:00～19:00の12時間)

※調査主体：遠野商工会

※調査対象：歩行者・自転車・バイク

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 観光交流センター整備事業（事業主体：遠野市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成20年度～平成22年度
事業開始・完了時期	平成21年度～平成23年度【済】
事業概要	遠野市観光交流センター整備事業は、当市の玄関口である遠野駅前において観光客への観光案内等の機能を強化する事業。 人と人との直接的な案内の他、観光客自らがデータを検索できるとともに、遠野の文化をライブラリーで紹介するなど多様な機能を使って魅力ある情報を提案する。 また、地域の特産品の展示紹介のほか、中心市街地の各商店街の情報や市内イベント情報を発信し、観光客や市民に対して中心市街地の回遊を促し、賑わい創出の目標とする事業。
目標値・最新値	「歩行者・自転車・バイク通行量」 目標値 4,668 最新値 3,416
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	指標目標値には届かなかったが、観光交流センター整備により、駅前に観光案内の拠点整備され、市街地観光の拠点としても多くの入館者が訪れた。

計画終了後の状況（事業効果）	<p>城下町にふさわしい町家と蔵をきちょうとした外観整備により、周囲の景観と調和がとれ、駅前のお出迎えや観光情報発信の中心となっている。</p> <p>施設は、一般社団法人遠野市観光協会が指定管理者として管理しており、観光案内のほか地域特産品販売や地域情報の発信を行っている。</p> <p>観光交流センター入館者数 平成22年度 16,052人 → 平成24年度 24,535人</p>
事業の今後について	<p>平成26年4月12日からは、JR釜石線を毎週末、SL銀河号が運行されており、中間地点となる遠野駅前には、乗降客・観光客・鉄道マニアが多く訪れ、特産品販売や観光情報の発信拠点として機能している。</p>

②. まちおこしセンター整備事業（事業主体：遠野市）

支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) 平成21年度～平成22年度</p>
事業開始・完了時期	平成21年度～平成23年度【済】
事業概要	<p>遠野市まちおこしセンター整備事業は、中心市街地に位置し、JR遠野駅前に位置するJA遠野地方ビルが、JAの広域合併により撤退し、空きビルとなったことから、ビル・駐車場を一体的に取得・改修し、再生する。市の産業振興部門と商工会が入居し、商工業の相談ワンストップ化や会議室スペースを確保しまちおこしや賑わい創出の発信の中心となることを目指す。</p>
目標値・最新値	<p>「歩行者・自転車・バイク通行量」 目標値 4,668 最新値 3,416</p>
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	<p>指標目標値には届かなかったが、商工業者の相談窓口の一本化を図り、経営相談件数が増加した。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>商工団体との経営改善普及指導相談件数が増加。 従前値 平成23年度 891件 → 平成24年度 1,002件</p>
事業の今後について	<p>好立地のため、商工業者が来場しやすい環境整備がなされた。また、会議室として利用も多く、中心市街地の賑わい創出に貢献している。</p>

③. 公営住宅等整備事業（事業主体：遠野市）

支援措置名及び 支援期間	地域住宅交付金 平成 19 年度～平成 21 年度
事業開始・完了 時期	平成 19 年度～平成 21 年度【済】
事業概要	公営住宅等整備事業は、これまで郊外に整備してきた市営住宅の老朽化や間取りが狭小だったことから、中心市街地に新築し、住民のまちなか回帰による賑わい創出や歩いて暮らせるまちづくりを目指した。
目標値・最新値	「歩行者・自転車・バイク通行量」 目標値 4,668 最新値 3,416
達成状況	未達成
達成した（出来 なかった）理由	計画期間内に予定どおり事業完了し、1次募集で全戸加入となり歩行者の増に一定の効果があった。
計画終了後の状 況（事業効果）	子育て世代を想定した間取りにより、全 12 戸整備し全戸入居。
事業の今後につ いて	実施済み

3. 今後について

今後は基本計画により整備された環境を活かしながら、引き続き通行量調査を行い事業効果検証を行い、数値動向を中心市街地活性化協議会で把握するとともに、アンケート調査も実施するなど、中心市街地の活性化に資する事業に取り組んでいく。